★交通安全活動をサポートする

# にもつながる

うに語る。 全国72ヵ所にある主管支店を代表するドラ 国安全大会」が開催された。同大会は、 浜名湖で、「第3回ヤマト運輸労働組合全 **盫部長は、この大会を始めた背景を次のよ** を図ることを目的に、毎年行われている。 マト運輸のドライバーの安全知識・技術・ **及厚・常任中央執行委員安全対策部長兼調 恵識の向上と均質化、** 主催しているヤマト運輸労働組合の倉持 4月19日、交通教育センターレインボー (計72 名) が選手として参加した。 エコドライブの浸透

[ヤマト運輸労働組合全国安全大会]

はトラックメーカーの協力を得て、燃費を 組合と会社で持ち、3年前から全社的にエ 計測できる装置を当社の車両に取りつけ 安全対策にもなるだろうという認識を労働 して発展させたのがこの大会です」。 コドライブの普及に取り組みました。 「エコドライブは環境対策だけでなく 各地域でエコドライブに関する教育を そして、これを競技会と 倉持部長によ

という。 交通教育センターレインボー浜名湖だった 転競技、③車両感覚運転競技で構成され ブに関する問題 これらの総得点で順位を決める。 て、さまざまな提案を同組合に行ったのが 競技は①安全運転知識テスト、②エコ運

テストでは、選手が交通法規やエコドライ 互に取り組んだ。 午前8時3分から始まった安全運転知識 エコ運転競技と車両感覚運転競技に交 その後、選手は2つのグループに分か (30分・50問) に答えてい

は交差点や一時停止場所などがあり、通過 外周路では、 名湖の外周路および市街地コースを使用。 務づけられている。また、市街地コースで コースは、交通教育センターレインボー浜 行し、消費した燃料の少なさを競うもの する際の安全確認も評価の対象となる。 車両感覚運転競技は、正確な車両誘導技 エコ運転競技は、指定されたコースを走 40㎞/hで走行することが義

そうだ。この時

手探りで始めた

たため、最初は

めてまだなかっ 事例は他社も含 に関する競技の のエコドライブ ると、宅配車両

術を競うもの。9m四方のエリアに車両を 室には、水の入った容器が設置されており 人れ、その中でバックと切り返しによって 燃費は5・13㎞/ψ。エコドライブが浸透 **ᅹ行中に水がこぼれると減点となる。** 大会を視察した伊藤信義・ヤマト運輸 回転し通過するタイムを競う。 常務執行役員は「当社の昨年の平均 車両の荷

エコ運転競技のコースには交差点や一時停止 場所などが設けられている。外周路の直線区 間では40km/hで走らなければならない

7 から改善されました。これ 故件数も車両1000台当 の安全運転意識向上に役立 ライブの実践がドライバ 減っています」と、エコド にともない、 一昨年の5・01㎞/ℓ 39件から6・39件と 年間の交通事

ていると語った。



交通教育センターレインボー浜名湖のインス トラクターが大会の競技規則を選手に説明



競技の内容や大会の運営方法などについ

車両感覚運転競技では9m四方のエリアに車両を入れ、その中で バックと切り返しによって1回転し通過する

# **NEWS REVIEW**

## ●安全 健康 快適フェア2007 —安全衛生総合展 Hondaのシミュレーターによる 体験型の安全運転教育を体感

5月16日から18日までの3日間、東京ビッグ サイト(東京都江東区)にて「安全健康快適フェ ア2007―安全衛生総合展―」が開催され、約2 万人が会場を訪れた(主催: (財)全国安全会議 中央労働災害防止協会)。この催しには、67社・ 団体が出展し、「安全・安心な未来へのアプロー をテーマに、職場の安全衛生、健康・リフレ ッシュ、学校安全、交通安全、医療安全、防災・ 防犯・セキュリティ、環境改善などに関するさま ざまな優れた情報と技術の提供が行われた。



くのお客様 が、展示された シミュレータ・ を体験した。 写真はライディ ングシミュレ ーの様子



ターでは、自 転車に多い危険 場面を安全に体 験でき、自転車 の安全な走行に ついて学習でき

交通安全コーナーの一角には、Honda ドライビ シミュレーター、ライディングシミュレータ 自転車シミュレーター、モンパル(電動車い シミュレーター等が展示され、3日間で延べ 500人を越えるお客様がシミュレーターによる運 転を体験し、体験型の安全運転教育を体感した。 また、Hondaライディングシミュレーターを活用 した高校での交通安全教育の事例等もパネルで紹 介され、来場者の注目を集めた。



# |心者ライダーに、安全運転の |識と技術を楽しく身につけてもらう



各自が課題を持って練 習に取り組んだ



クルマの運転席に座ると左後方のバイクが ミラーでは確認できず、死角になることを

い」と佐

みを語

確認した

藤店長は意気込 続していきた.

運転のアドバイ 会を大切にして、 るので、このような機 を確認できたの り、自分の運転 ルに参加するこ に喜んでいただ いでしょうか。 -スを継 お客様 いてい 安 全



車で集合。最初に、日常点検、乗車姿勢の /ボー埼玉には、約50名の参加者が自分の 午前10時、会場の交通教育センター 準備体操が行われた。

説

るような走行をしたい」

と感想を語

た。

スクールの最後には、「総合運転」

が行わ

参加者は今日一日学んだことを振り返り

過する際には意識して巻き込み事故を く進入してしまうスペースです。 クターが示した。クルマの死角を確認

配した参

(クルマの死角について)」 スクールでは、この他にも

加者からは、「バイクで走行中に普段何気な

グループに分かれ練習を行った「課題走行\_ 課題を持ってじっくりと走りこむ時間が設け では、運転姿勢やアクセル操作など、各自が 停止するためのアドバイスを受けた。3つの 万、運転姿勢、目線の位置など、より安全に では、インストラクターからブレーキの握り 停止する練習を繰り返し行う「ブレーキ訓練」 続いて実技練習。目標地点でしっかりと

ながらまとめの走行を行った。

このスクー

がら繰り返し走行することにより、徐々にス 免許を取ったばかり。「アドバイスを受けな ていない方も、 催が予定されている。「バイクの操作 ムーズな操作ができるようになって 吉川友美さん、高山亜樹さんの3名は、 感覚を楽しみたい」と話してくれた。 じます。バイク特有の風と一緒に走る 今年は、この日を含み7回のスク ルに参加した広田優子さん、 共に ル

が特徴 ような に慣れ ではな とによ ると感

「総合運転」では、1日のまとめの走行が行われた

交差点を通

防止す



キ訓練」の模様



が行わ 安全 れ、ク ストラ 運転の

●企業/□輪]=本田技研工業熊本製作所 「四輪]=内の各コース 「四輪]=大州管区警察局熊本情報通信部機動隊、八代広域消防本部 「四輪]=九州管区警察局熊本情報通信部機動通信隊、大分県 「四輪]=九州管区警察局熊本情報通信部機動通信隊、大分県 「四輪]=十の各コース、親子でパイクを楽しむ会ファート・セカンド・スペシャルの各ステージ 「四輪]=HDS入門・初級・中級・車庫入れマスターの各コース ス

●一般/[二輪]=HMS中級 ●一般/[二輪]=HMS中級

● 企業/[二輪] =オールホンダ

・産業/[二輪] = HDS初級・中級の各コース・関西本部・菱電工機、セールスカレッジ・セーフティコーディネーター、ユタカ技研、本田技研工業鈴鹿製作所
・官公庁/「四輪」= 大坂地方検察局、大坂水道局
「四輪」= 大坂地方検察局、大坂水道局
「四輪」= 大坂地方検察局、大坂水道局

●企業/[二輪] = 本田技研工業浜松製作所 「四輪」 = シニア講習、高齢者講習、ホンダカーズ静岡西ドライル・トライアル入門・オフロード入門の各コース、親子でバイル・トライアル入門・オフロード入門の各コース、親子でバイル・トライアル入門・オフロード入門の各コース、親子でバイクを楽しむ会ファースト・セカンドの各ステージクを楽しむ会ファースト・セカンドの各ステージグスクール、HDS自己診断&安全デバイス体験

■[四輪]=シニア講習、高齢者講習 ・一般/□輪]=取得時講習、初心者講習、高齢者講習、ブラートレッスン、HMのサンセット・初中級半日・中級半日の各コース、体験スクールのとコース。体験スクールのとコース。体験スクール

● 企業/[二輪]=ホンダモーターサイクルジャバン、本田技術 ・ 本田技術研究所二輪開発センター、本田技研工業埼 ・ ボンダドの名、本田技研工業埼 ・ 大名・ター、ホンダドの名、本田技研工業埼 ・ 一般/[二輪]=トロの名、本田技研工業埼 ・ 一般/[二輪]=HNS初級・中級・上級・バランスファースト・パランスセカンドの名コース、親子でパイクを楽しむ会ファースト・パランスセカンドの名コース

ホンダ開発

活動短信 ●交通教育センター 5 月